

教育実習を願みて

佐々木 敦子

教育実習を願ひみて書く事となりましたが、教育実習に於て何を、そして何を学んで来たのでしょうか。実習を前にして私の胸の内に去来したものは不安と好奇心でした。好奇心等と書きますと少し不真面目な様ですがあの時の私の気持ちを考えてみます。この言葉がびくたりしていた様な気がします。ここにあえて用いる事としました。近き将来に於て教壇に立つとする私達に初めてぶつかり経験せねばならない難問、さて

これをいかにのりこねればよいのでしょくか。受持された学年は小学校二年生、生徒と相対した時そのあまりにも小さく、かわいしいのにとまどいを受けた程でした。四十六名の澄みきつた瞳が私達に注がれている。そう思つた時私の体の中を何か走りぬけた様な気がしました。それはいつたい何んだつたのでしょくか。ともあれ小学校低学年の指導は大変なものです。教材研究の大切なことは云くに及びませんが子供にいかに関解させわかつせるかと云う教える事の前後階とも云うべき言葉の用い方、云うなれば技術の研究とでも申しましょくか、同じ小学校でも高学年と低学年では生活、思考面ともに異なるのであるのです。然るに教える立場も少々異なつて来るのではないでしよくか。高学年では教材そのものの研究によればよいのでしよくか。低学年ではそつういふわけにもゆきません。もし教える事の要素が知識と技術とに二分されるならば低学年に於ては技術の面に重点をおかねばならないでしよく。まず国語や社会では理論のみが中心なので自然とおもしろくも無くなり、生徒も正直な目で退屈すれば見向きもせず、自分の好きな事を始めます。中学生や高校生あるいは教員のごとき大学生になると多少は理性とやうな物について聞いていなくとも表面だけは熱心に聞いて居る様な顔付をして他事を考へてゐるのです。また純心な生徒達はおもしろい事には異常なまでの興味を示し、その反対の場合は目もあてられぬ様な結果となつてしまふ。故に私こと教生は前夜寝もやらずに指導案を書き上げるとともにその時向に用いる教材用具としての絵やカード作り等に専らし、少しでも生徒の興味を引く。教材内容を理解してもシミと涙

ぐまじき努力をして翌日いざ教壇へ。しかし神なつめ我が身の悲しさ指導案とつりに行かずに脱線する事故回終業のベルが鳴る時にはびや汗をびつしよりかくとともこの生徒たちの貴重な時間、再びめぐつてはこない大切な時は私は無駄にしたのではないか。いつたい私は何を教えようとし、生徒達に手えだてあろうかと云う不安と絶望感とが私の心をとつて、だだぼう然と立つてしまふ始末。でも次の瞬間生徒達にまわつわりの運動場へひつぱり出された時には童心にかえり何も考えずにだだ無心に生徒達と飛びまわつて遊んでゐる私でした。……右のごとき日々、長くて短かつた四週向を過ごした私が今ふりかえつて思ふことは、教育実習とは確かに苦しい事の連続でした。でもそこにはいつとも笑い顔の生徒と長年経験さひめた恋愛に満ちた先生方のまなざしがあり、苦しい中にも活気のある日々だつた様に思ひます。そして期向中の難向持味は何事に於ても評価される事を嫌う人間にとつて大変な事です。互に批評し合うことは将来評価する立場に立つものとして必要な事ではないでしよくか。確かに苦しい実習中にも楽しい時はありました。それは生徒とともに遊ぶ時であり又未熟な私と生徒との熱意に答えてくれ授業もおもしろい程の反応を示して展向される時です。この時にこそ教える事の楽しさを味わひ喜びを感じるので、でもその反面生徒の目は厳しく私の行動、言語すべてに注意が払われていると思ふ時、自分自身になげかけられた責任感の重みにたえぬけられるかと不安になつてしまふのです。

この様によろこびと不安のくりかえしの中に於て教育実習は

展開され、自分自身の存在太いかに小さなものであり、欠点の多い未熟な人間であるかと思ひ知らされ傷付くとともにその中より立上らうとする生命の息吹を感じとるのでした。教育の真理は永遠のものであるが故に長年の経戦を経ていつしやる先生方ますます悩んでいらつしやいます。ましてや四週向だらすの短期間の実習を終えた私がわかつくはずありません。

ただこの四週間に於て学びとくた事本将末私の人間形成の面に於て何らかの形で現われるであらうことを信じつゝ筆をおくこととします